

築地国際化プロジェクト

東卸、ベトナムへ試験輸出

「世界で通用する」と好感触

東京魚市場協同組合(東卸)伊藤淳一理事長と日本貿易振興機構(シエトロ)は13、15日、「築地国際化プロジェクト」の一環として、ベトナムへのトランプル輸出を行い、仲卸の輸出に向けて好感触をつかんだ。

プロジェクトは同団体 総代、事務局(人)シエ 衛生証明書など各種手続 が仲卸の輸出を支援する トロが参加。物流や商社 きを落させ、フレッシュ もの。昨年4月から始動 など専門家を回した。コンテナを利用し、空輸 し、今回は築地市場から トランプル輸出の行程 で現地へ発送した。 ベトナムに向けて築地は 13、15日の3日間、 14日は現地に着荷状態 輸出する場を想定して た。15日は築地市場内で の調査。「日本国内での 流通と同じ品質状態だっ た。梱包した際の氷が解 凍し、鮮度(たんぱく質)も落ちていなかった」 関係者、築地バイヤーら の 手際もスムーズだったと 感じている。ベトナムは 15日は同国ホーチミン



築地の目利きをスクリーンを使って説明した(東卸提供)

市内のホテルニコロサ インで、空輸した魚介 類を使い、築地の魚介類 を紹介するイベントを行 った。ホテルや飲食店開 業者、築地バイヤーら の 関係者、築地バイヤーら の 手際もスムーズだったと 感じている。ベトナムは 15日は同国ホーチミン や試食を実施。築地の目 利きの技術をスクリーン を使って伝えた。オリブオイルであった 服し、仲卸の販路拡大に つなげていきたい構え だ。

みなと新聞

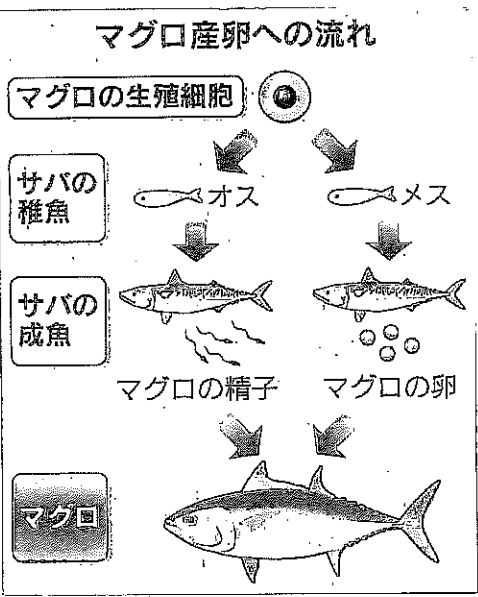
1月23日

サバがマグロを産む

東京海洋大 生殖細胞の移植成功 養殖用に稚魚量産

東京海洋大学の吉崎明 明教授らは、クロマグロ の卵と精子になる生殖細胞 をサバに移植する実験 に成功した。今夏にも産 卵して交配が可能になり、 マグロの稚魚が誕生 する見込みだ。絶 滅危惧種に指定されたク ロマグロを養殖し、安定 的に供給できる技術とし て実用化を目指す。

必要な体重約100gの の親のマグロを飼育する 大きな専用施設も必要 だ。サバは孵化から1年ほ どで繁殖可能になる。大 人になっても300gほ どで、比較的小さな水槽 でも育てられる。 マグロは大きな分類で いうと「サバ科」に入る。 吉崎教授らは、クロマグ ロから生殖細胞を取り出 してサバのオスとメスの 稚魚に移植した。移植先 の稚魚はあらかじめサバ の精子や卵を作らないよ うに処理しておいた。そ の後、移植した生殖細胞



日本経済新聞 1月24日

11年連続の突破確実

大阪市場の市場見学者数1万人超記録 一社・大阪中央市場 本場市場協会(植田孝理 理事長)が主催、年間1万 人突破が10年連続して続 いている市場見学者数が 今年度も1万人を超える 事が確実となり、10日 に、11年連続の記念セレ モニーがおこなわれる。 平成8年度から続いて いる1万人突破の記録。 26年度も26年4月からの 累計で市場見学者数が1 万人を超える事が確実と なった。

この事業は、市場のPRと教育などを目的におこなわれているもので、小生などを中心、主婦のリピーターも多い。ちなみに、26年度1月までの各月見学者数は次の通り。

▽26年4月	394▽5	
月590▽6月	1,06	
3▽7月	793▽8月	5
86▽9月	1,407▽	
10月	1,736▽11月	1,
578▽12月	718▽27	
年1月	954	
▽以上	9,824	